

北京日本学研究中心創立25周年記念 国際シンポジウム 祝辞

2010年10月16日、17日

於：北京外国語大学日本学研究中心

尊敬する皆様、本日の北京日本学研究中心創立25周年記念国際シンポジウムの開催にあたり、四国華僑華人連合会を代表して、また、大平正芳先生の故郷、香川県に留学し、そして、その地において、中日経済交流の発展のために尽力している経営者の一人として、心よりお慶び申し上げます。

大平正芳先生は、卓越した政治家であり、中日両国の関係の健康的な発展に、重要な影響を及ぼしました。首相在任期間中、先見の明をもって、独自の外交姿勢により、中日両国の信頼関係を熱心に築かれたことは、後世永久に語り継がれるものと確信しております。

昨年、私も、大平正芳先生生誕100周年記念国際学術討論会に出席させていただき、主催者の皆さんや参加者の皆さんのスピーチを拝聴し、中日関係の重要性を、あらためて考え、学ぶ機会をいただきました。

中国と日本は隣国であり、そして、同じアジア圏であり、また、言語についても、漢字を主とした国としては、世界で中国と日本だけでございます。歴史的な感情問題は、まだまだ残されておりますが、お互いが行き来し合える時代に生まれ、そのチャンスを得た私たちこそが、手を取り合い、理解し合い、尊重し合い、子々孫々の輝かしい未来に向けて、お互いの力を最大限に発揮できるよう、努力を続けなければならないと、強く感じております。

本日、ここにお集まりの皆さんは、当時、両国の良好な外交関係に多大なるご尽力された先人たちの遺志を深く理解され、中国と日本が互いに良き隣人として発展に向かうことを願って止まない同志の皆さんであると信じております。

この研討会が、後世に末永く引継がれて行かれますことを、心より祈念申し上げますと共に、私たち四国華僑華人連合会一同、引き続き、中日発展の未来に向けて、努力して参りたいと存じますので、今後とも、ご指導賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、大平財団と北京日本学研究中心の益々のご繁栄と、関係者の皆様、そして、ここにお集まりの皆様のご健勝、ご多幸を、心よりお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

2010年10月16日

四国華僑華人連合会 会長 張 嘉樹